

# 「徳島県庁・受援計画」の概要

○南海トラフ地震をはじめとする大規模災害時に、自衛隊、警察、消防、DMATなどの**外部からの応援機関を円滑に受け入る体制**を構築する。

○外部からの応援機関等の円滑な受入れに向けた、**平時からの取組**や**発災直後からフェーズ毎（初動期・応急期・復旧期）の対応**を定める。

平時

## ●県庁の受援体制

- ・ 応援・受援調整班の設置
- ・ 各班でマニュアル等を整備し、応援要請や受入手順を明確化

## ●受援環境の整備

- ・ 電源や通信等、応援機関の活動に必要な受援環境の整備
- ・ 宿泊場所や休憩場所の確保
- ・ 民間事業者との連携協定等の確認
- ・ 定期的な課題の洗い出し

## ●訓練による実効性の向上

- ・ 検証結果をマニュアル等にフィードバック

## ～「命を守る」フェーズ～

### 発災直後

#### ①庁舎の安全確認

- ・ 万代庁舎の継続利用、代替庁舎の設置判断
- ・ 代替庁舎設置時の速やかな準備
- ・ 電力等の庁舎機能の確認

#### ②受援体制の構築と庁内調整

- ・ 受入場所確保や資機材等の配備
- ・ 災害対策本部各班はマニュアルに基づき応援要請
- ・ 応援・受援調整班は庁内の情報を集約・調整

#### ③情報の収集と発信

- ・ 利用可能な進出経路や宿泊施設などの応援に必要な情報を収集
- ・ ホームページ等で随時情報発信

### 人命救助に向けた受援調整

#### < 応援の想定 >

- ・ 救出・救助、被災者の救急医療等が最優先
- ・ 電気、水道、通信などのライフラインの確保
- ・ プッシュ型で派遣される連絡要員等の受入れ
- ・ 自衛隊、警察、消防、DMAT等の実動部隊の現地活動を調整

#### < 受入規模の想定 >

39機関、約290名

## ～「命をつなぐ」フェーズ～

### 応急期（発災1週間）

### 多様な応援を活かす受援調整

#### < 応援の想定 >

- ・ 避難所運営とライフラインの応急復旧等
- ・ 衛生管理など被災者支援ニーズの増加
- ・ 自治体職員など現場を支える応援の本格化
- ・ NPO法人やボランティアなど、多様な応援

#### < 受入規模の想定 >

40機関、約290名

### 復旧期（発災1ヶ月）

### 被災者支援のための受援調整

#### < 応援の想定 >

- ・ 被災者支援に重点が移行
- ・ 被災者個々の状況に応じた支援ニーズの増加
- ・ 応急仮設住宅等の確保に向けた応援
- ・ 各種災害対応業務に係る長期派遣職員の受入れ

#### < 受入規模の想定 >

40機関、約330名

災害時